

NO43
2010.7

長野県建築士会
佐久支部

ちくま



佐久の蔵元

—中仙道宿場の地酒—

武重本家酒造株式会社

佐久市茂田井2179

明治元年(1868)酒造業を創業。江戸時代後期の住宅と酒造施設30棟が歴史的景観を伝える貴重な建物として国の登録有形文化財に指定される。

酒は文化財の中で造られる。

—若山牧水の歌碑より—

よき酒と

ひとのいふなる

御園竹

われもけふ飲みつ

よしと思へり



酒蔵内部



牧水の碑

支部長あいさつ	2
建築課長ごあいさつ	3
通常総会	4
委員会より	5～7
特別寄稿	8
第10回佐久地域建築文化賞	9～11
新任あいさつ	12
新会員の声	13
佐久地域景観講演会	14
塩尻市見学会及び県建築士会通常総会	15
事務局よりお知らせ	16

モクジ

ご挨拶

(社)長野県建築士会佐久支部
支部長 **重田 元一**



梅雨空の中、会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。私も昨年5月の総会において、支部長に選任され、一年余りが過ぎた訳ではありますが、計画された21年度支部事業も予定通り出来ました事は、役員を始め会員1人1人のご協力のお陰と深く感謝致しております。

さて、今、私達佐久支部を取り巻く状況も大きな改革の波の上に居ると言っても過言では無いと思います。今、本会、支部でわかっている予定等は、23年度には、本会への会計統合予定。また、25年11月末までには、公益又は一般かどちらかの法人へ移行していなければならないと言う事です。

21年度より建築士の免許交付が建築士会で出来るようになり、佐久支部でも3月15日交付式を行いました。これから本会与支部の関係は深くなる一方と思われる中、支部の独立という事は考えられない事と思います。

15支部が同じ考えで、同じ方向を向いて、これから公益社団法人又は一般社団法人へ移行して行くという事がありますので、これからの建築士会のあり方を考えながら広い視野に立ち、ご理解をお願いいたします。

いずれにしましても、支部があつての本会が成り立つという基本的な考えの下で今までの佐久支部としての事業・活動等が組織体制が変わりましても23年度も引き続き行われる事を前提に、取組んで行かなければならないと思っております。

この事について、会員個人に情報を提供するという事は難しい点もありますが、本会の組織検討特別委員会または、新法人移行推進委員会等で決定された事は、何らかの形で会員に報告いたします。毎月送られて来る“建築士ながの”等に注目をして、本会の動向に関心を持って頂

きたいと思ひます。

また、支部の22年度新事業として、長野県「地域発 元気づくり支援金事業」に景観対策要請団体として、青年女性委員会の申請が採択されました。この事業は、来年3月に開通となる中部横断道佐久南インター付近を地元の小学生・地元の区等に働きかけ、花木の苗を植え、花と緑の景観を作ろうという計画です。各委員会、一般会員に協力をお願いしなければ出来ない事業だと思っております。この様な取り組みが発端となり、若い会員が増えてくれたらと思っております。

終わりにになりましたが、新しい法人移行の事で、これと言った結論も示されない中で、歯がゆい思いをしている会員も多い事と思ひますが、これからの支部のあり方、進み方について基本的な考えを曲げないようと思っております。

今の経済情勢は良いとは言えませんが、会員の皆様方のそれぞれの分野でのご活躍とご健勝を祈念いたしまして、まとまらない文章ですが挨拶文とさせていただきます。



ご 挨拶

長野県佐久地方事務所 建築課
課 長 **小林 健吾**



盛夏の候、会員の皆様におかれましては、ご清栄のこととお喜び申し上げます。

また、日頃、県の建築住宅行政に格別のご理解とご協力をいた

いておりますことに厚くお礼申し上げます。

5月に開催された総会の際にもお伝えいたしました。本年4月から建築課は合同庁舎4階へ移転し業務をさせていただいております。

部屋も若干広くなり、今までは複数のお客様に同じテーブルを使用して対応させていただくことがよくありましたが、移動後は別々のテーブルでお話しをお聞きできるようになりました。

4階まで上っていただくためご不便をお掛けいたしますが御理解の程よろしく願いたします。

さて、厳しい経済状況の中で経済指標の一つとなっている新設住宅着工戸数の推移も全国的に伸び悩みの状況を示しております。

本県におきましても平成21年度の住宅着工戸数は10,800戸、前年度比25.5%の減という状況で、比較できる現行の統計数値としては平成44年以降最少の数値であるとのことです。

当佐久管内はと申しますと平成16年度から2千戸を超える新設住宅の着工を示してまいりましたが、昨年度は1,503戸で前年度比26.9%の減という状況でした。

この落ち込みは賃貸住宅、分譲住宅の大幅な減少が主な要因と考えられますが、持家住宅においては4.6%の減に止まっていることから、国において本年度から始まった長期優良住宅の認

定制度や住宅エコポイント、県においても本年度からスタートした信州型エコ住宅『ふるさと信州・環の住まい』助成金制度が活用されることにより、住宅建設意欲の高まりが期待されま

す。
次に、昨年の政権交代により国土交通省においては関係団体をはじめ多くの方々からご意見をお聞きし、「確認審査の迅速化」や「申請書類の簡素化」等について運用改善の方針を示し、これに対応した改正省令及び告示が本年6月1日をもって施行されました。

この施行により迅速化や簡素化等の改善が図られることと思いますが、見方によっては、建築物の設計、工事監理のプロである建築士の皆様に託された責任は一段と重くなったとも考えられます。

この機会に新たな気持ちで業務に取り組んでいただければありがたく思っております。

終わりに、(社)長野県建築士会佐久支部の益々のご繁栄と会員の皆様のご健勝を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



長野県建築士会佐久支部 第22回通常総会

佐久支部第22回通常総会が去る5月14日、佐久グランドホテルに於いて、盛大に開催されました。

一 次 第 一

1. 開会の辞
2. 1) 綱領朗読
2) 建築士の歌斉唱
3. 物故会員の黙祷
4. あいさつ
5. 来賓ご紹介
6. 出席人員報告
7. 書記任命(2名)
8. 議事録署名人任命(2名)
9. 議 事
 - 1) 議案第一 平成21年度事業報告
 - 2) 議案第二 平成21年度収支決算及び会計監査報告
 - 3) 議案第三 平成22年度事業計画(案)について
 - 4) 議案第四 平成22年度収支予算(案)について
 - 5) その他
10. 書記の解任
11. そ の 他
12. 来 賓 祝 辞
13. 閉 会 の 辞



重田支部長あいさつ

平成22年度事業中間報告

4. 5～16 二級・木造建築士試験受験申込用紙配布
4. 14 第6回総務企画委員会 かつ栄
4. 15 第5回三役会 会計監査 佐久合同庁舎
4. 16 第4回教育事業委員会 八風
4. 19 第6回三役会及び第5回理事会
佐久グランドホテル
4. 20 第8回青年女性委員会 佐久ホテル
4. 26 県理事会及び評議委員会 松本市
5. 11 第7回三役会 かつ栄
5. 12 長野県元気づくり支援金打合せ
佐久合同庁舎
5. 13 長野県元気づくり支援金説明会
佐久合同庁舎
5. 13 軽井沢自然保護対策要綱条例化に係る説明会
軽井沢町役場
5. 14 第22回通常総会 佐久グランドホテル
5. 17～21 第10回佐久地域建築文化賞パネル展示
佐久合同庁舎ロビー
5. 25 県関プロ青年協長野大会実行委員会
長野県建築士会館
5. 26 第1回青年女性委員会 佐久グランドホテル
5. 27 第1回CPD・専攻建築士制度運営委員会
佐久グランドホテル
5. 29 塩尻まちなみ見学会 塩尻市
5. 29 (社)長野県建築士会第60回通常総会 塩尻市
6. 2 第1回三役委員長会議 佐久グランドホテル
6. 3 第1回社会貢献委員会 佐久グランドホテル
6. 4 県組織検討特別委員会 長野県建築士会館
6. 8 第1回教育事業委員会 かつ栄
6. 11 県理事会 長野県建築士会館
6. 11 第1回情報広報委員会 佐久グランドホテル
6. 13 三役顧問懇談会 かつ栄
6. 15 県総務情報委員会 長野県建築士会館
6. 16 県建築活動委員会 長野県建築士会館
6. 17 佐久南IC付近植樹事業下平区長様説明
6. 18 県青年女性委員会 長野県建築士会館
6. 21 県社会貢献委員会 長野県建築士会館
6. 21 支部支出調査 佐久合同庁舎
6. 21 佐久木造住宅耐震推進協議会委員会反省会
かつ栄
6. 22 佐久地域景観育成委員会 佐久合同庁舎
6. 23 第2回社会貢献委員会 佐久グランドホテル
6. 24 第1回三役会及び第1回理事会
佐久グランドホテル
6. 25 建築確認手続き等の運用改善に関する講習会
佐久勤労者福祉センター
6. 26 第2回情報広報委員会 佐久グランドホテル
6. 28 建築士免許出張受付 佐久合同庁舎
6. 29 県執行委員会 長野県建築士会館
6. 30 新CPD制度説明会
佐久勤労者福祉センター

本年度の 委員会活動について

総務・企画委員長 山口 康憲

本年度も引き続き委員長を務めさせていただきますが、宜しくお願ひ申し上げます。

平成25年に移行する新しい公益法人制度に伴い、長野県建築士会は本部、支部の会計統合を来年度から行う予定で現在様々な検討が行われています。「建築士ながの」では今年に入ってから毎号のように関連記事が掲載されていますので多くの会員の皆さんがご存知の事と思いますが、支部活動も大きな変革を迫られる可能性があります。年内には決定される本会の方針を受けて、佐久支部でも今年度中に臨時総会を開催し方向を決める必要があります。これから出される様々な情報をぜひご覧いただき、会員の皆さんが一人一人自分の事と捉えて来たるべき総会にご参加いただきたいと思ひます。

また来年度は役員改選に当たりますので、11月以降「役員選考委員会」の設置から次期役員選出の為の臨時総会の招集・開催のお手伝ひをさせていただきます。規約の改正による3回目の役員改選になりますが、来年度からは各支部の規約は全県で統一されたものになると予定されており、法人形態の臨時総会と兼ねて行われる可能性もあります。

今年度は上記以外ではすでに終了したものも含め、総務企画委員会は下記の事業を行います。

1. 本会通常総会出席と塩尻市の建築視察
(5月)
2. 東信ブロックゴルフコンペの開催 (7月)
3. 三団体合同ゴルフコンペの開催 (9月)
4. 本会「建築士フォーラム」(旧会員大会)
への参加・協力 (11月)
5. 景観講演会の開催 (2月)

このように、総務・企画委員会の役割は基本的な支部活動及び各委員会活動のサポート、本部・他支部の活動への協力、会員相互の親睦の増進、行政との連絡・協力、地域社会への貢献及び広報等多岐に渡りますが、広く会員の皆さんの声を聞き、それを運営に反映させる所存です。今まで以上のご指導、ご協力を宜しくお願ひ申し上げます。

平成22年 教育事業委員会 活動について

教育・事業委員長 柏木 邦彦

新しい公益法人制度により、公益社団法人が一般社団法人に移行、又平成23年会計統合と問題が山積みの中、今年度は支部独自で事業を計画・実行できる最後の年になる予定です。

教育事業委員会では、新CPD制度が運用されCPD制度参加者は、年間取得単位数が50ポイントから12ポイントに変更され佐久支部会員の皆様は、クリアするのが容易になった事と思ひます。今年度は佐久地域建築文化賞の予定も入っていないため講習会の内容を充実していきたいと考えています。

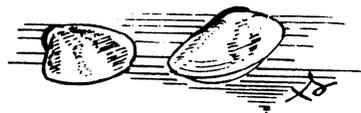
『今年度は次の活動を予定しています』

- 6月 講習会 佐久地方事務所建築課
- 7月 見学会 第10回建築文化賞受賞作品
- 8月 講習会 実務講習会 (内容検討中)
- 9月 講習会 佐久地方事務所建築課
- 10月 見学会 山梨県 (予定)
- 11月 講習会 実務講習会 (内容検討中)
- 12月 講習会 佐久地方事務所建築課
- 1月 新年講演会協力
- 2月 地区別講習会協力
- 3月 講習会 実務講習会 (内容検討中)

教育事業委員会では、上記のような事業計画を立てました。多くの皆様に参加して頂きたいと思ひます。

第10回佐久地域建築文化賞受賞作品は下記の場所で展示予定です。

- 9月 社会貢献委員会「ウッドクラフト」
- 10月 支部会員大会



平成22年 社会貢献委員会の活動について

社会貢献委員長 山田 功

先ごろ開かれた委員会にて、この年の事業計画が話されいくつかの事業が話されました。第一には、ジャスコ佐久平店での4回目になる「親子で作ろう！ウッドクラフト」があります。昨年、青年・女性委員会が企画、参加した「ホットボンド工作」はとても好評でしたので、今年も参加していただく予定です。また、士会をアピールするため、教育事業委員会にお願いし、佐久地域文化賞のパネル展示等のコーナーを設けたいと考えております。具体的な内容や実施の詳細はまだ確定していませんが、参加してくださる親と子供たちが、楽しく過ごす時間が持てるよう、新しい試みを加え、さらに「建築士会」を紹介できるよう準備して行きたいと思っております。

また昨年も開催しました佐久近隣での「景観・建物の見学会」を行いたいと思っております。昨年行った、軽井沢の見学会は冷たい氷雨の中で開催となりましたけれども、参加希望を断るほどの大勢の参加を得て実施することが出来ました。一般の方々も多く参加され、今年も興味をひく内容を企画して進めて行きます。

またその他に7月の建築士の日を記念とした企画も考えてはどうか、近隣での地区計画や再開発等に積極的に加わって行きたいなど活発な意見が出されました。

平成19年度から社会貢献委員会として編成され今年で4年を迎えました。建築士会も社会の大きな動きの中で、その位置をはっきりと決断し、行動を始める時を向えています。

開かれた士会を目指し、社会への参加と認知をさらに進めて行く中で、この委員会が担う大きな役割に何か焦りを感じる昨今ですが、委員の皆さんとじっくりと取り組んで

行きたいと考えております。

今年度も社会貢献委員会の事業が無事に行われ、成果をあげることが出来ますよう、会員皆様のご参加とご協力をどうぞよろしくお願い致します。

「情報広報委員会活動」について

情報広報委員長 小林 清

情報広報委員会は下平副支部長の下、理事4人、委員13人で構成されております。

第1回委員会を6月11日(金)に開催し、会報「ちくま」No43号の企画会議を行いました。

表紙をNo41号から「佐久の蔵元」に変更し今回のNo43号で3回目となります。以前は公共建築物の竣工写真でしたが、編集委員7人で蔵元さんを訪問し、社長に直に説明をしていただき編集することは楽しいことです。そして酒造りの歩みを通して佐久地方の歴史を垣間見た思いがします。



委員の訪問状況（今回－武重本家酒造(株) 建築物30点が登録有形文化財とのこと）

全体情報広報委員会を7月中旬に開催し

①佐久支部ホームページの充実

②講習会の計画

JW-CADの使い方 景観法による図面の色づけ等

③会報「ちくま」を7月と1月の年2回発刊する。を再確認したいと思っております。

この委員会は30代～70代の方々で構成されていますが、これからも会を1回でも多く開催し、これからの建築との関わりあい方等支部と協力して行きたいと思っております。

また、会報「ちくま」は今までも会員の方々の協力で発刊されてきました。これからも原稿依頼の折には快く引き受けて下さいますよう再度御願ひします。

会員の皆さんと仲良く、楽しく委員会活動を行っていきたい所存です。

H22年度 青年・女性委員会 の活動について

青年・女性委員長 星野 武光

今年度は、長野県の「地域発 元気づくり支援金」の交付が五月中旬に決定し「(仮称)佐久南インターチェンジ花・みどりの景観～植樹事業」を実施する次第となりました。佐久支部全体での活動となりますが、青年・女性委員会も若い活気ある力を出していきたいと思っています。すでにこの事業が実施できるよう、当委員会のできることにについては、岸野・桜井地区の先輩方のご協力のもと少しずつ活動させていただいていますが、何分、知識がなく経験不足なものですから引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。

他の支部活動としては、8月21日(土)親睦ソフトボール大会の開催(会場:佐久橋グランド)、第4回ウッドクラフトの協力などです。

本会関係活動としては、関プロ茨城大会への参加、来年6月16・17・18日の関プロ長野大会開催の協力(会場:まつもと市民芸術館)。青年の集いへの参加、ECOコンテストの協力など盛り沢山です。

ここで6月24・25・26日に参加した関プロ茨城大会「融合ー青年建築士のフュージョンー」のことを報告させていただきます。



佐久支部からは私も含め5人参加、また皆が初めての関プロの参加でした。今回は来年の関プロ長野大会の

準備視察、長野県青年・女性の結束との位置づけもあり長野県からバス2台、約60名での参加となりました。今回の目的は、分科会・講演会・見学会から多くのことを学ぶこともひとつですが、一番は来年の長野大会を関プロ参加県にアピールすることでありました。

行きのバス車内では、懇親会での長野大会PRタイムでメインとなる諏訪御柱の木遣り唄のあいの手、掛声の練習。そして法被を着てステージでの発表!長野大会を十分アピールできました。また佐久支部青年としては、25日全体会議Ⅰ、全体会議Ⅱにおいて最前列に座り長野県佐久の意気込みをアピールしてきました。

本年度も他支部、他県の青年・女性に負けないう頑張っていきます。よろしく願いいたします。

CPD制度の オープン化について他

C P D・専攻建築士制度運営委員会

委員長 臼田 幸夫

(社)長野県建築士会では平成18年度よりスタートしましたC P D制度が今年度4月1日より非会員の建築士及び建築施工管理技士の皆様へもオープン化への実施に踏み切る事になりました。また、旧制度では任意の参加でしたが、今後は原則として会員は全員参加となりました。

支部のC P D参加者は現在128名で全会員の約32%程ですがこの割合をいかに上げていくのが今年度の大きな課題の一つです。

今までと大きく変わった部分についてご説明致します。

- ・従来のQ R Cシールは廃止し、C P Dカード(裏面は士会会員証)をカードリーダーで読み取りデータ登録します。
- ・単位の対象となるのは事前に認定されたプログラムのみとなり実務・委員会活動及び自習型の研修は対象外となります。
- ・目標単位を50単位(実務14+研修36)から事前認定プログラムの12単位となります。
- ・C P D参加者用システムに登録することにより個人の取得単位の確認及び全国の認定プログラムの詳細が把握出来ます。

認定プログラムのみが対象ですので(専攻建築士の方は12単位以上を目標)どこでどんなプログラムが開催されているのかシステムで検索をして興味のもてる内容には他支部あるいは県外へと足を運ぶようなこともあるかもしれませんね。その他詳細については「建築士ながの3月号」を参照していただくか、又は事務局を通じ当委員会へ問い合わせをして下さい。

専攻建築士制度についてもその必須条件であるC P Dの取得単位が変更になったために今年度専攻建築士の申請を予定している皆さん、来年度に更新を向かえる皆さんはその取得単位に注意をしなければならないと思います。

今、建築士会は建築士全体のための団体としてより公益性の高い活動を要求されています。今年度の会員大会はその名称を改め「(仮称)建築士ネットワーク・佐久2010」となる予定です。内容については、ただ今委員会で詰めていますので乞うご期待を!

特別寄稿

自分の居場所

長野県建築士会名誉会長 出澤 潔

県建築士会の総会を控えて支部が企画した塩尻周辺の建築見学会に参加しました。松本を中心に古民家再生で活躍している川上恵一さんの案内でとても素晴らしい時を過ごす事が出来ました。情熱一杯の、そして軽妙洒落な話し振りは時間を忘れさせ、川上さんの建築に向かう純な気持ちが参加者に共感を与え、共通な思いとなったように思います。建築を通して親睦を深める本当に素晴らしい機会となりました。

見学会は皆さんにそれぞれの思いを与えた事と思いますが、私が一番感じた事は川上さんの故郷への強い想いです。自分が生まれ育てられた場所や家族と地域の人々への愛情そして誇りと自慢が飾らない言葉で直裁に表現され、こんな事を考え続け実践する事実に驚きと羨ましさを感じました。そしてこれが川上さんの建築の原点なのだろうと強く感じたひと時でした。

故郷を思う、今生活しているこの場所を大切に思う、そういった心は人が持つあたりまえの心ではあると思いますが、本当に日々の生活の中でその心を確かめ続け大切にしているのかを自分に問うと、私はうなだれてしまいます。

私の机の前には吉村順三先生の写真と山本学治先生の言葉の入った額が懸かっています。山本先生は近代建築史家として社会と建築を見つめておられます。「風の糸」と題して、子供達の風を例に挙げて、「現在の日本の建築はその糸を断ち切らねば高い自由な飛翔は出来ないと身悶えしている。(1950年記)」と前置きして『いつの時代においても価値ある建築芸術は、一本の糸によってその時代の人間生活全体に結び付けられており……』は私が時に応じて考え直す大切な言葉になっています。そしてその言葉は「人々すべてが持っている同じ意志は『良き明日』を願う心であり……現実への愛情を拒否する限り、私らの建築からオリジナリティは失われ……」と続いています。山本先生は資本主義経済下での建築生産に少し距離を置かれていたように私は感じていて、先生の多くの著書は建

築に向かい合う私の心を育てて下さったように思っています。授業の合間に「君達は、いつかは必ず自分の故郷に戻れ」と言われた事を何故かいつまでも覚えています。友人はそんな事があったのかなと言いますが、今私がこうして在るのはこの事が少し頭の隅に在った為かもしれません。

建築士の定期講習のテキストに「建築は社会的な存在であると同時に、建築士もまた社会的存在である……」とあります。今更ながらという気もしますが、この言葉には私達がフト忘れてしまっている事が在るように感じます。この事は私達が日常的に携わっている建築は単なる経済的価値だけでなく、その価値を生み出すための知恵や社会的仕組みなどの産物であって、その時代に生きる人々の文化の表れであるということ伝えて思うのです。建築はそれに携わる皆が造るものであり、建築生産に関わる私達が日常的に行っている行為がその土地のその時代の文化の姿を残しているのだと考えた時、その責任の重さに鳥肌の立つ思いがします。

3年程前から士会の景観整備機構で子供達の景観教育プログラムを作ることを考えました。一つひとつの建築が私達のまちの景観を作ると考えた時、建築が社会的存在とあると言われても経済至上主義の社会構造の中では私達の力だけではどうにもならない部分があります。これからの社会の仕組みを考える子供達に、環境を大切に思う心を育てる事も私達の責任ではないのでしょうか。そして、ようやく多くの皆さんの協力によって今秋、このプログラムが安曇野で実現出来そうです。とても嬉しいことで大いに期待していますが、私は景観教育の基本は「お互いの立場を尊重し譲り合う」ことでしかないと思っています。「優しい心が薄れたことがまちを美しくなくした大きな原因のように思う」と田村明氏は著書で述べています。

「建築士もまた社会的な存在である」と講習会のテキストは建築士への期待と共に自戒を求めています。私達は自分の故郷にそして自分が生活する場所のために何をしなければならぬのでしょうか。

第10回 佐久地域建築文化賞 受賞作品

『一般部門』

- 奨励賞 作品名 栄像堂&アトリエ
設計者 甘利 享一
所在地 小諸市

道路沿いに建つこの建物は、とても魅力的なファサードをしている。ショウウィンドウと塀を一体化した壁式ラーメン構造のコンクリート打放しの壁面と、その奥の木造平屋の暖勾配をもつ切妻屋根がバランスよく並び、異種構造でありながら一体感があり、外壁の杉板とコンクリートが違和感もなく、横の広がりを感じさせるスッキリしたフォルムを感じる。

内部においては、ローコストでありながら、その言葉を感じさせない仕上がりである。シンプルで広い空間と自然素材とのバランスが心地良く、林の中をイメージさせる心休まる空間に仕上がっている。

(重田 元一)



- 最優秀賞（地方事務所賞） 該当作品なし
- 優秀賞 該当作品なし
- 特別賞 該当作品なし

『住宅部門』

- 最優秀賞（地方事務所賞） 作品名 もっと光を！
設計者 山浦 伸一
所在地 佐久市

審査委員6名共好評価。浅間山が眺望でき周辺の自然環境にも配慮されておりコンセプトがしっかりしている。設計概要より工夫、配慮した内容が明確である。題名の通り（もっと光を！）妻面を南側にし隣室とも吹き抜けを設け、境壁上部を嵌め殺しランマガラスとし自然光を屋内の奥まで呼び込んでいる。

伝統ある和風住宅の中にも現代住宅のデザインが工夫されており、技術的にも設計者の意図を的確に施工されている。



- 優秀賞 作品名 岩村田の家
設計者 甘利 享一
所在地 佐久市

玄関前に大きく張り出したキャノピーは、ガレージ用になっていると共に、来客を両手を広げて迎えてくれる様に見える。

また、リビングからの見通しは、各部屋が敷地の高低差や、建物の振れ角をうまく利用し、部屋全体が一体感を演出していると同時に広々とした開放感を与えてくれる。非常に気持ちの良い空間である。（重田 元一）



ちくま No.43

- 奨励賞** 作品名 菱平の家
設計者 甘利 享一
所在地 小諸市

浅間山麓の景観に配慮し、自然との融合を図っている。高さを抑え周辺を圧迫しない配慮がなされ、軒先をシャープに納めた構造は創意が見られる。

深い庇・濡れ縁は、室内と外部を一体化し安らぎを与えてくれる。

自然との調和を考える住まいづくり、将来への展望へと設計者の工夫、愛情を感じさせる。 (赤尾 邦弘)



- 奨励賞** 作品名 軽井沢の家
設計者 菊池 弘之、菊池 広美
所在地 軽井沢町

作品の住宅は、軽井沢にも多く見られる片流れ屋根を組み合わせた屋根形状を基調とし周辺の住宅との調和を図りながら、袖壁を効果的に使うことにより、建築物のデザインに工夫し質の高いものとなるような配慮が感じられます。また、室内空間においては、「子供達の声が、家中何処にいても聞くことができるように」との住む人の希望にオープンスペースで応える一方、軽井沢の冬の寒さには太陽の日差しから受ける暖気の循環、夏の暑さには1階部分から2階へと立体的な風の流れが生まれるような開口部の設置に配慮されている。



- 特別賞** 作品名 南ヶ丘の家
設計者 菊池 弘之、菊池 広美
所在地 軽井沢町

作品の別荘は、北・西側が道路と接しており、エレベーションもその部分は、石貼りで大きな柱型となっており、強固で豪華さをかもしだしている。セキュリティの観点からも、安全、安心感を与える直線を基調としたゴシック調のエレベーションである。一方、道路に面していない、南・東側のエレベーションは、一転し、開放的で明るく、そして温もりを感じる。このギャップについては、「賛否両論であろうか」とも思いますが、軽井沢の地域性を熟知されている技が成し得たデザインではないだろうか。

(東浜 四雄)



- 特別賞** 作品名 鹿島の森の家
設計者 菊池 弘之、広美、神谷 幹子
所在地 軽井沢町

作品は、軽井沢の高級別荘地に建つ別荘である。プラン上は、不整形でフロアーに段差があり、「複雑な建物になっているのでは？」と思いつつ、現地を訪れると、エレベーションは至ってシンプルに上手くまとめた。

特に、寒冷地の建物は、シンプル イズ ベストと思う。その点では、評価したい。また、使用部材についても適材適所に使用されており、寒冷地に於ける建築の知識をいかに発揮された建物だと思います。

(東浜 四雄)



第10回「佐久地域建築文化賞」の報告

第10回 佐久地域建築文化賞にあたり

教育・事業委員長 柏木 邦彦

平成21年12月9日に審査会が開催され各賞が決定されました。審査員の皆様方には、御忙しい中ご足労頂きありがとうございます。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

今回の応募作品は、一般部門3点、住宅部門12点でした。一般部門が少ない感じでしたが応募作品はそれぞれ立派な作品で、設計者の熱意が伝わってきました。応募いただいた皆様に感謝申し上げます、入選された方、入選できなかった方も、次回の応募よろしくお願ひします。

佐久地域建築文化賞への参加は、創作意欲・設計活動の質の向上につながると思います。

受賞されました皆様、ほんとうにおめでとうございます。

最後に審査員のご芳名を記載します。

長野県佐久地方事務所長	西 祐司様
長野県佐久地方事務所建築課長	小林 健吾様
(社)長野県建築士会佐久支部長	重田 元一様
小諸市景観美化推進協議会長	赤尾 邦弘様
(社)長野県建築士事務所協会佐久支部長	東浜 四雄様
(社)長野県建設業協会南佐久支部長	木下 修様
	代理 黒澤 和彦様

審査委員会総評

(社)長野県建築士会佐久支部長 重田 元一

本年度で第10回となります建築士会佐久支部主催の建築文化賞であります。新たに名称を佐久地域建築文化賞と変えスタートしたわけがあります。この小諸、佐久地域は、南に蓼科、八ヶ岳、北には、浅間連峰、その間には、清流千曲川が流れ、県の歌信濃の国にも歌われている様な景観地帯であります。そんな中で、一般部門3点、住宅部門12点の応募がありました。今回のコンクールは、前回に比べ一般部門の応募が減り建築業界だけでなく社会の景気悪化を表しているようでありました。住宅部門では、景観や環境に対する細やかな対応が見られ、周辺の自然への配慮が感じられました。受賞した作品をみますと、木材を多く見せてある分、何らかの親近感を感じ、見ているだけで癒される思いであり、佐久地域の様々な環境に配慮し、人を暖かく包み、風土、文化への適合性を見せてもらった思いです。問題はないといえませんが、和風住宅と洋風住宅を同じ観点で比較をし坪の単価50万円の住宅と坪の単価が100万円近い住宅を比較審査しなければならなかった点は、次回考慮を要すると思います。



表彰式の様子



受賞された皆様

新任のご挨拶

佐久地方事務所建築課
技師 郡司 亮

長野県建築士会佐久支部会員の皆様、はじめまして。佐久地方事務所建築課の郡司亮と申します。日頃から長野県の建築行政にご協力をいただき感謝申し上げます。平成21年12月1日付けで、長野地方事務所建築課より佐久地方事務所建築課に異動になり、佐久へやってきました。佐久地方事務所建築課は長野地方事務所建築課に続き、2番目の勤務地であります。今現在は長野市から毎日新幹線通っている身なのですが、佐久の皆さんとお話をさせていただくと、皆さんそろって「佐久はいいところですよ。佐久に引っ越して来ればいいですよ。」とおっしゃいます。佐久を悪く言う方は一人もいらっしゃらないので、佐久は佐久地域の皆さんにとっても愛されている場所なのだな、と実感しております。

私自身の事を少し紹介させていただくと、これを読まれている皆さんはまず、名字に注目されると思います。「郡司」という名字は長野県では聞きなれず、珍しいかもしれません、生まれは栃木県であります。ただ、母親が長野県出身であり、幼い頃から長野県には良く訪れ、馴染みがありました。また大学進学で長野県に来たことも何かの縁で、大学生活四年間の中で長野県の魅力に更に惹かれました。そこで、長野県で働くために長野県職員になることを決意し、今に至っております。

今年の4月からは審査地区では小諸市・立科町の担当になりました。以前いました長野地方事務所とは全く違い、確認申請・景観法の届出等の件数の多さに、毎日悪戦苦闘しております。

今年度もすでに建築士会主催の講習会などを開き、変更点・改正点等を説明させていただいておりますが、まだまだ建築士のみなさんには混乱を招いているのが現状であります。私もまだまだ未熟者でありますので、ご迷惑をおかけする事になるかと思いますが、ご指導をお願い致します。引き続きこれからも長野県の建築行政にご協力をよろしくお願い致します。

新任のご挨拶

佐久地方事務所建築課
河野 智博

はじめまして。私、この4月から佐久地方事務所建築課建築係でお世話になっております、河野智博と申します。ご迷惑をおかけすることも多いとは思いますが、よろしく願いいたします。新任のあいさつとして、みなさまに知っていただけるように簡単に自己紹介をさせていただきます。

改めまして「河野智博」です。よく間違われがちなのですが、「かわの」ではなく「こうの」です。平成22年度新規職員として、佐久にやってきました。3月までは信州大学工学部に在学しておりました。大学初めの1年は松本にいたのですが、出身が長野市であるため、21年間は長野市で過ごしておりました。そんな私にとってこの佐久は、3番目の街ということになりました。軽井沢も近く、佐久平駅周辺は賑わいがあり、何よりも自然が多いこの環境で社会人としての一步を踏み出せることは、パソコンとのにらめっこの続く私にとっては、とても嬉しく思います。最近では高校の頃やっていた硬式テニスを再開し、心身ともに鍛えていかなければいけないなと感じています。

県職員となり3ヶ月近くになりました。学生と社会人の環境の違いに戸惑いながら、周囲の方のおかげでなんとかやっております。未熟ながらも御代田町の担当をさせていただいております。何回か完了検査に行かせていただいておりますが、いろいろな新築の建物を見る事ができる貴重な仕事であると感じました。一方で、それだけ重みのある仕事だということも実感しつつあります。それだけに、いち早く仕事に慣れ、自信を持って対応ができるようになりたいと思っております。佐久ではあと何年間かはお世話になるとは思いますが、至らぬ点が多くご迷惑をおかけしてしまうことが多いと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い致します。

新会員の声

2度目まして

大井 絢子

妊娠・出産と2年間専業主婦をしておりましたが、縁あって昨年4月から社会人生活2度目のスタートを切ることになり、同時に建築士会へも再入会させていただきました。

1歳半の息子を抱えての新しい生活は不安もありましたが、周囲の皆様に支えていただき、なんとか一年無事？過ごすことができました。

年はオールド？ですが、気持ちはフレッシュで仕事にも取り組んでおります。

息子も今年3歳で、とても元気が良いです。言葉を覚え始め、突っ込みを入れられ、食事がまずいと突き帰され我が子の成長を喜びながら、親子共々毎日奮闘しております。

ユニバーサルデザインは主流になっておりますが子連れでの、お出掛けは敷居が高い所もあります。

例えばスロープですが、勾配・材質共使い勝手が悪く、結局子供+ベビーカーを担いで歩くなんてこともありました。

私の旦那様はイクメン【育児（イクジ）に積極的なメンズ】で、よく子供と二人で出掛けて行きますが、お出掛け先でオムツ替えをするスペースが中々無いそうです。今や授乳スペース・オムツ台などは、女性だけのものでは無いので多目的トイレまたは男性のトイレにも設置をお勧めします。

建築士会は勉強会や見学会など活発に行っておりますので、徐々に参加して生きたいと思えます。

宜しくお願い致します。

私の目標

木内 丈夫

私の実家であり、今勤めている会社は軽井沢町銀座通りのすぐ近くにありま。実家から少し離れると閑静な別荘地帯が広がり、春夏秋冬自然と共に幻想的な雰囲気が感じられます。その中で私は育ちました。実家が工務店という事もあり、幼いころから大工職人の仕事や設計図などが身近でした。また、自然や芸術にも興味があったため自分の進む道は迷いなく建築に向かいました。

建築を学ぶため軽井沢を離れたのは、東京にある大学4年間と会社4年間の8年間でしたが、東京も思い出深い所になりました。しかし、迷いながらもいつか帰ることは自分にも分かっていて、2年前に軽井沢の実家でもある工務店に就職しました。東京にいた頃も長期の休みには帰郷し、実家の有難さと軽井沢の美しさを感じたものでしたが、同時にマンション建設など開発による変化に驚いたものでした。

軽井沢町は、明治初期、木々もない不毛の地であり、寂れた宿場町でしたが開拓者による植林と、西洋人による避暑地としての内外の著名人への紹介により発展し、別荘、避暑地や療養、観光地として有名になったと聞いています。私も学生時代研究仲間と共に軽井沢別荘調査をし、1000件ほどの別荘をまわりましたが、当初の別荘は数少ないけれど自然にとけ込み美しかったことを覚えています。同時にこの歴史や文化を守らなければいけないと思いました。

私は今、建築、土木共現場で主に施工に当たっています。開発が続いている中、これからの軽井沢別荘建築はどうあるべきか、軽井沢のより良い発展とふさわしい建築のあり方、自然を大切にすること、自然と調和する建築、このことを考え設計、施工していくことがこの町で育った私の目標です。

こんな状況ですが、お互い頑張っていきたいと思います。

佐久地域景観講演会

情報広報委員会 上原 明彦

佐久地域景観協議会、建築士会佐久支部、小諸市景観美化推進協議会による景観講演会は2月5日、講師に柳澤孝彦氏（TAK建築・都市計画研究所代表）を迎えて佐久グランドホテルにて開催されました。参加者は佐久地域にとどまらず県下各地に及びました。柳澤先生は、



松本市生まれで竹中工務店設計部を経て、1986年[新国立劇場]国際設計競技当選を機にTAKを設立。日本芸術院賞、日本建築学会作品賞など多数受賞されています。

県内には松本市の窪田空穂記念館のほか、佐久教育会館等があり、後者では一昨年の見学会に多くの支部会員が参加し、明快に設計のプロセスを語られた柳澤先生の印象が鮮明に残っています。講演の冒頭、広重の東海道五十三次



（庄野白雨）を例に、そこに描かれた旅人・宿場・竹藪・雨の絶妙なバランスはまさしく日本の景観美であり、自然と歴史風土の調和から生まれていることを強調されていました。後半は

自ら撮影された世界各地の街並みを示しながら、隣と違う建物であっても景観としてはまとまりを持って時代を越える美を獲得しているのは、つくる人が違っても隣とかけ離れたものにはしない配慮がなされているからであるし、自身の設計作品については、まず敷地固有の自然や歴史的な軸を読み取ることに最も力を注ぐとのお話であった。

とかく建築家の言説は哲学的？かつ難解になりがちだが柳澤先生のことばはそれらとは一線を画し、先生の風貌そのままの、まことに知的で清々しい講演であった。芸大卒業後の経歴に触れ、なぜゼネコンに入ったのか・モノをつくるということを実感として身につけなければ設計ができないと感じていたからだ・との趣旨をお聞きした時には、納得すると同時に深い感銘を受けました。

さて佐久の景観に対して我々は何ができるのか・肝心なところで字数が尽きてしまいました。世代を越えて受け継がれる財産とするには、先人に学びつつ、佐久の風土を深く認識しないことには始まらないことは確かなようです。浅間口と名付けながら、浅間山が見えない玄関口ではやはりおかしい。景観とは一朝一夕にできるものでないことを肝に銘じた一日でもありました。



塩尻市見学会および 平成22年度 長野県建築士会通常総会 大竹 雅英

平成22年 5月29日、民家の再生やまちづくり活動を行われている川上恵一氏の案内により、塩尻市周辺の建築見学会に参加しました。

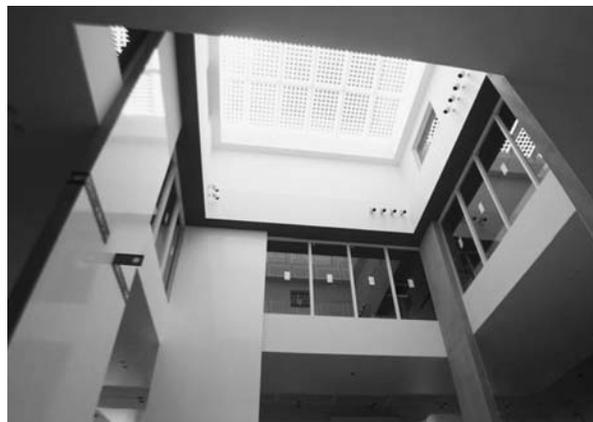
最初に、「本棟造り」2階建民家約95坪（明治元年築）を移築した「塩尻短歌館」（国登録有形文化財）を見学しました。“雀おどし”と呼ばれる棟飾りが特徴の「本棟造り」は、長野県の中信地方から南信地方にかけて分布する民家の形式です。現在は数えるほどしか残っていませんが、以前は本棟造りが街道沿いに何軒も建ち並んで壮観だったそうです。



続いて、日本三大遺跡の一つである「平出遺跡公園」を見学しました。縄文時代から平安時代にかけて集落があった遺跡で、豪華な文様で飾られた土器や石器類が多量に出土している国指定の史跡です。縄文時代中期（約5000年前）の茅葺き屋根の住居群や穀物倉（高床式倉庫）が復元されていて、実際に室内に入って縄文時代の空間体験をすることができました。



最後に、竣工間近の塩尻市市民交流センター「えんパーク塩尻」（設計監理：コンテンポラリーズ、施工：北野・松本土建JV）を見学しました。長さ11.5m、厚さ206mmの長大な薄い板状のPCa版は、建物の主要構造部材である壁柱です。その壁柱が上部の球体ボイドスラブを支える特殊な構造形式（鋼板鉄筋コンクリート造）になっています。壁柱を建てる時の施工上の留意点やディテールについて、現場代理人から話を聞くことができました。林立する97本の壁柱の中に4つの大きな吹抜け空間が設けられ、太陽光がトップライトから降りそそぐ開放的な現代建築でした。

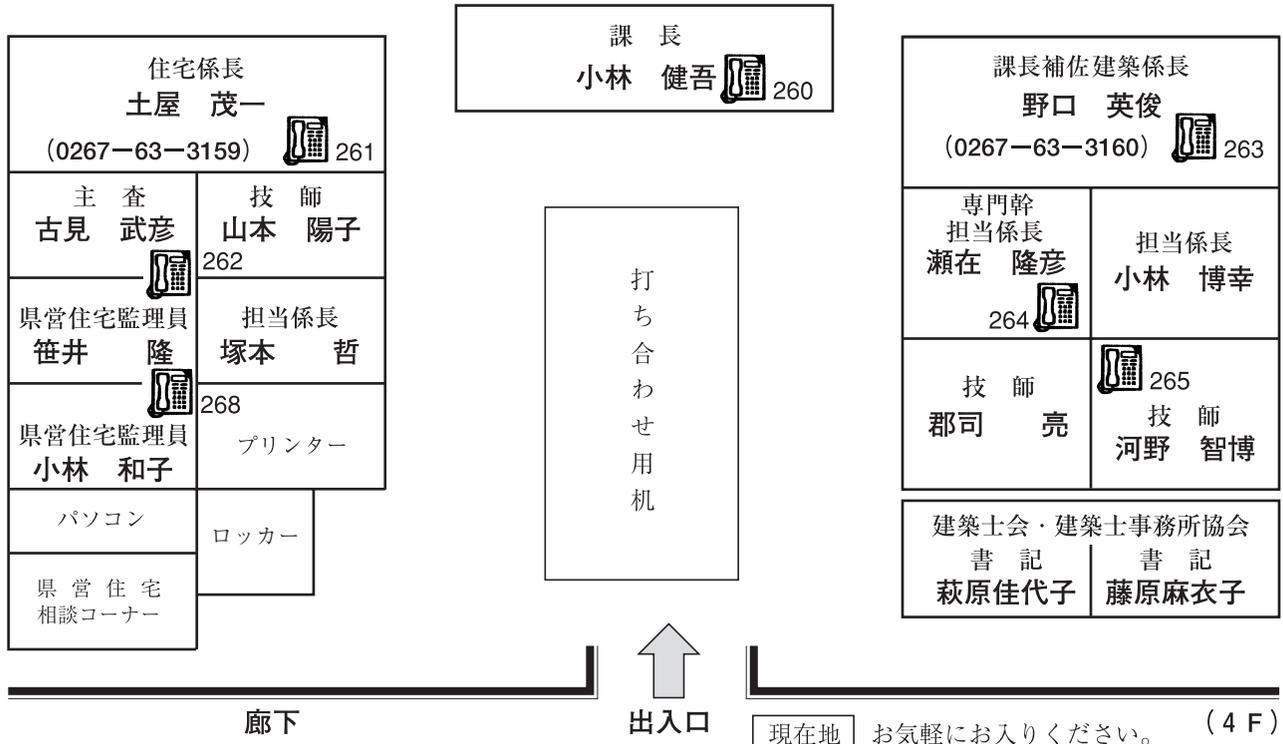


お忙しい中を我々佐久支部参加者のために案内していただいた川上恵一氏には、道中のバスから眺める風景や建築に対する哲学まで楽しく饒舌に話していただき、塩尻市の有名建築をしっかりと見学することができました。改めてお礼を申し上げます。

午後から塩尻レザンホールにおいて平成22年度長野県建築士会通常総会が開催されて、佐久支部からは29名が出席しました。



建築課配置図



■事務局よりお知らせ

● **出澤 潔さんが
受賞されました。**
会員一同こころから、お喜び申し上げます。
建設事業功労者長野県知事表賞
受賞日：平成22年 6月10日



●編集後記

地球の温暖化が原因なのか？各地で大雨による被害が報告されています。自然・環境に対して我々人間がすべき事は何か、あらためて考えさせられます。
今回の表紙で協力して頂きました武重酒造取材に訪れた日は暑い日でしたが、築100年余りの酒蔵に入った瞬間こちよ涼しさにふれ、機械による冷房などにたよらない古き建物のすばらしさをあらためて感じました。今回も、ご寄稿頂きました皆様お忙しい中ありがとうございました。(T・K)

会報『ちくま』第43号 2010/7
 発行者 (社)長野県建築士会 佐久支部
 情報・広報委員会
 事務局 〒385-8533 佐久市大字跡部65-1
 佐久地方事務所内
 TEL 0267-63-8080
 FAX 0267-63-3330
 E-mail ken8080@aba-saku.org
 支部HP http://www.aba-saku.org
 印刷所 株式会社 中 信 社
 TEL 0267-67-2152



は平成23年1月中旬発行予定です。